

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町2-4-18 FAX0282-22-3757
代表：齋藤昭俊 電話連絡先0282-22-7079(増田)
Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp HP：太平山麓九条の会で検索



134号
2018年6月28日発行

世界史が「武力」ではなく「対話」の方向に 激変しようとしている



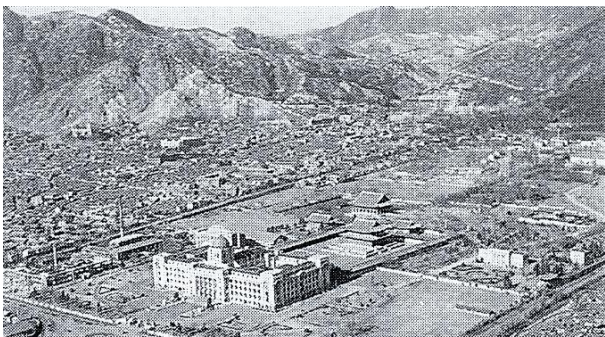
郡司 俊雄

六月十二日、シンガポールでトランプ大統領が金正恩委員長とにこやかに握手をかわし、「朝鮮半島の非核化」「北朝鮮に対する安全の保証」で合意、共同宣言に二人がサインしました。
トランプさんは「プロセスのはじまり」「非核化は科学的に長い時間がかかる」といいました。「対話のはじまりなのです」。
今年の正月、罵り合った二人が仲良く話しながら散歩する姿をみました。私は文在寅大統領の存在が大きいと思います。毎晩続いた何十万人という韓国民衆のキャンドルデモが「平和のためならなんでもする」という文さんを大統領におしあげました。その背景には長い長い韓国民衆の苦難の歴史があります。「今後多数多くの困難があるだろうが、二度と引き返さないし、この大胆な旅程は決して放棄しない」と大統領は言います。

朝鮮戦争

1910年、朝鮮半島は日本の朝鮮併合で日本領土とされ、日本の敗戦で、北をソ連、南をアメリカが占領、分断されたまま二つの国家になりました。1950年、南北両国間で朝鮮戦争が始まり、南を国連軍という名の米軍、北を義勇軍という名の中国軍が支援、半島の南の端から北の中国国境まで半島全土が戦場に、そこで南北が憎しみ合い、殺し合い、米B29の爆撃で焦土と化し、死者が中国義勇軍40万人を含め460万人、離散家族1000万人といわれます。占領下の日本は米軍の出撃基地となり、憲法9条をもつ日本人も米軍に協力させられ、戦死者一名を出しました。海上保安官中谷坂太郎さん(大阪出身)です。

戦線は38度線をこえて南下したり、北上したりを繰り返して膠着状態に、53年7月27日、アメリカ、北朝鮮、中国の間で休戦協定が結ばれ、停戦ラインの両側2キロが非武装地帯とされました。それ以来、65年間「停戦」の状態、非武装地帯をはさんで南北がにらみ合い紛争が絶えず、東アジア最大の不安定地域でした。



1951年(昭和26年)焦土化した「ソウル」

苦難のみなもとは、日本の植民地支配でした。そこから不幸な分断へとつながり、「分断の悲嘆で流した涙がかるほどの歳月が過ぎました」(在日詩人金時鐘さんの言葉)。

私は日本の責任を重く感じます。私たちも韓国、北朝鮮の民衆といっしょに、多数多くの困難に乗り越えるため力をつくそうではありませんか。

・お知らせ・

◆スタンディング

7月9日(月)栃木市役所前
7月19日(木)コトブ栃木店前
午後4時～ 30分間)

◆鎌田慧さんと青木理さん による公開対談

＝原発 沖繩 憲法＝
7月7日(土) 午後1時半～
栃木県弁護士会館 大会議室
入場無料
(ごみ問題を考える栃木県連絡会)

◆2018年原水爆禁止 国民平和大行進

広島と長崎への原爆投下から73年の夏を迎えます。核兵器のない世界へ向けて、今年も行進します。
7月11日(水) 午後5時半～
入舟庁舎駐車場 栃木市入舟町
カワチ薬品入舟店跡地)

◆落合恵子が語る

～平和への想い～
8月31日(金) 午後6時半～
小山市文化センター大ホール
チケット500円(学生無料)
落合恵子と平和を考える会)



青木澄子さんのお話

「朝鮮」での体験を聞く

日本統治時代の朝鮮で幼少期を過ごした青木澄子さんは、1936年（昭和11年）に朝鮮（現在の北朝鮮）の咸興府（かんこうふ）で生まれました。青木さんのお父さんは真名子村（現在の栃木市西方町）出身の教師で、朝鮮に渡って教えていました。

青木さんは、当時10歳の記憶をたどりながら、お父さんの教員生活の様子やご自身の学校生活のこと。敗戦後の46年8月に日本に引き揚げてきた時の様子など、大変な苦勞であっただろうに、ユーモアに気さくな口調で語っていただきました。また、朝鮮からの引き揚げ者であることをひた隠しにしていた心痛もお話されました。



5月26日 栃木文化会館 60名余りが集う・・・

参加者からも、東京大空襲で戦災孤児になってしまった痛ましいお話、満州から引き揚げてきた方のお話など、お聞きすることができました。「知ることには力」となることを感じるよい集会となりました。（大森八重子記）

今こそ「憲法9条」で世界平和をリードしよう



山本 磐夫

安倍政権はトランプ米外交に追従してきた。即ち、北朝鮮に対して軍備を増強する「最大限の圧力」に固執して来た。この固執のキーマンはトランプ大統領補佐官で対北強硬派のボルトン氏である。他方、ボルトン氏とは距離を置くポンペオ米 국무長官は金正恩朝鮮労働党委員長と2回会って北朝鮮の印象を変えていた。トランプ大統領も変わって来た。そして、トランプ大統領は米朝首脳会談で「最大限の圧力」という言葉はもう使いたくないと言った。安倍政権だけが「最大限の圧力」に固執してい

る。トランプ氏に梯子を外されたような状況の日本外交になっている。しかし、進もうとしている対話路線の足を引っ張ってはいけない。日本が唯一出来ることは北朝鮮を敵対しないことだ。米国と一緒に軍備を増強したりすればアジアの平和はマイナスになる。平和憲法九条を持っている日本の存在価値は大きい。日本外交に憲法九条を活かすことが問われている。今こそ、改憲しない平和憲法九条で世界の平和をリードできるタイミングである。みんなで「憲法9条」を守ろう！

意図した絵本教科書。
ライオンを国家権力、檻を憲法にたとえて、私たち国民が国家権力に暴走しないように縛りをかけ、憲法の枠の中に入ること約束させたと説く。これがよく言われる「立憲主義」のこと。憲法は、個人の尊重、人権尊重という目的に向かって組み立てられたとも強調する。
縛られている国家権力が、縛りを自ら解こうとしているのが今の憲法改正の土台であることがよくわかる。憲法を使いこなすためにも、繰り返し読むことを推奨します。きっと光り輝く日本国憲法に万感の思いを自覚することでしょう。



かもがわ出版 2016年
椋 大樹 著
(はんどう たいき)

檻の中のライオン

わたしの
おすすめ絵本

元井 茂